

マダラの生活史把握と資源変動要因の同定

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 成松, 庸二 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012419

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ズワイガニの資源診断

八戸支所

特別研究員 上田 祐司

研究の背景・目的

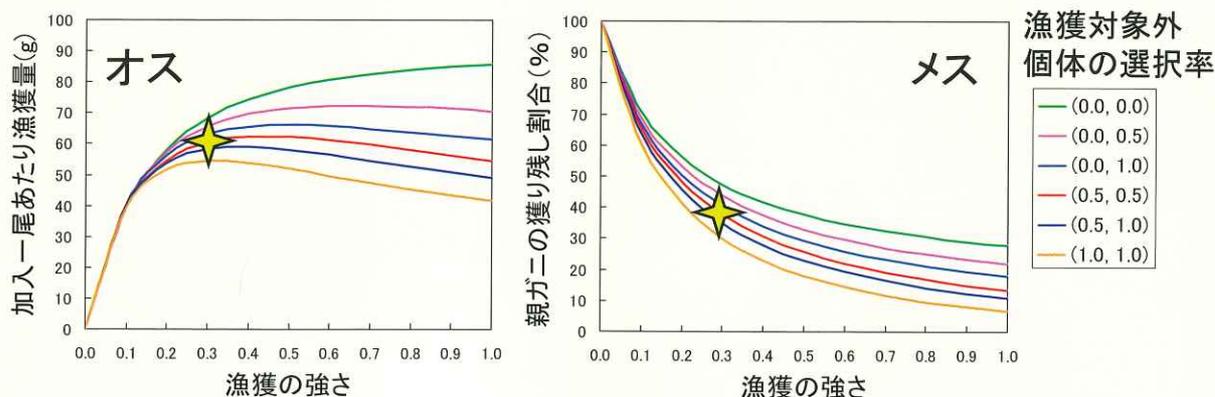
1. 東北海域の本種もTAC魚種として重要
2. 資源モデルを用いて現状の漁獲の強さでの資源状態を診断

研究成果

1. 現状の漁獲の強さは適切な水準, これ以上漁獲を強くすると, 漁獲量は増えないが親ガニ量は減少
2. 漁期制限などの漁獲規制が資源状況に効果的に作用

波及効果

1. 本種の持続的な漁業生産
2. 太平洋北部における成長や再生産関係が明らかになると, 資源量や漁獲量の将来予測も可能



漁獲の強さに対する, オスの加入一尾あたり漁獲量およびメスの親ガニの取り残し割合。漁獲対象外個体は, オス(平均甲幅44.3mm, 58.7mm), メス(平均甲幅49.6mm, 66.2mm以上の未成熟ガニ)。★は現状の漁獲の強さを示す点。